長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１１６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年９月１５日(金)

教え子達に支えられて

先日、教え子の結婚式に行ってきた。今年は既に3回目の慶事であった。あと2回予定があり令和5年は5回の招待を受けている。（教師冥利を感じる反面、経済面では中々の打撃だ…）

この教え子を担任させて頂いた時も6年生飛び入り担任だったが、中々のヤンチャぶりを見せた学級集団だった。しかしながら教師という職業は、エネルギーを費やした分、苦労した分、必ず教師冥利として、後に達成感として帰ってきます。今回の結婚式でもそれを感じることがありました。参列していた教え子からこう言われました。

「先生がいなかったら俺達は今ここにいません。先生に出会えてよかった。」

そんな大袈裟な…と思いましたが、どうも本気のようでした。彼は5年生の頃、相当ヤンチャしていましたからね。他の教え子達も同様でしたが、今でもあの頃の思い出は消えないらしく、ことあることに話題に上るそうです。

子供達はよく「先生から生き方を学びました。」と嬉しいこと言ってくれます。しかし、私にとっては逆ですね。私自身が教え子達に支えられて今の自分があるように思います。多くの教え子達に支えられて生かされている自分です。まだまだ、子供達のために頑張らねば！

6年生へのメッセージ
思春期の入り口「今をどう生活するか」

6年生の子供達の心や体はどのように変化しているのでしょう。体の変化は毎日接していらっしゃる保護者の皆様が一番ご存知のことと思います。この時期、体の変化に伴って心にも微妙な変化が生じてきます。いわゆる思春期という時期です。難しい時期ではありますが、目標を見つけそれに向かって前進することが出来れば、素晴らしい効果をあげることがあります。しかしながら、物事の本質を見失い、欲や本能だけで行動すると悪い結果を生む時期でもあります。

思春期の典型的な行動パターンを幾つか紹介しましょう。まず、親とは違った価値観を身に付けようとするため、大人への「反抗的態度」が出てきて、ちょっとしたことで怒ったりします。また、オシャレにも気を遣いはじめます。男子も女子も服装や髪型には敏感です。周りの友達にどう見られているかは、とても気になることのようです。また、周囲の仲間や大人に認められようとして、自分のキャパシティ以上に頑張るものだから、そのストレスに耐えきれず、不安定さを露呈することもあります。誰もが通る時期ではあるものの、親としては心配な時期でもあります。

やっていることはとても幼いのですが、子供達は真剣です。でも、そういったことが大人の目からはどのように映るか、自分の将来にどのような影響が出てくるのかを知っておく必要があります。中学校になって、反抗的な態度ばかりとったり、オシャレに気を遣い過ぎたり、ルールが守れなかったりすれば、高校進学に影響がでてくるのは明らかです。自分の夢の実現にも影響が出るということです。そこをどう伝えるかが、我々の腕の見せ所です。ご家庭の団欒の話題にしてみてはいかがでしょう？

シリーズ「自分を語る」#１１６

中央小学校1年目、早速ナイトハイクとキャンプについて子供達に提案し理解を得ましたが、問題は保護者の理解と校長先生をどう説得するかです。

当時担任させて頂いた子供達はとても人懐っこく、私に対してもフレンドリーに話しかけてくれました。また、私自身、厳しさをベースに是々非々の判断を崩さず、その様な中にもユーモアや息抜きを忘れなかったので、子供達も私のことを「怖いけれど面白い」とか「厳しいけれど変？」と捉えていたようでした。学級の中ではすでにキャンプやナイトハイクに向けて何をしなければならないかという話し合いがスタートしていました。まず子供達が始めたのは朝のランニングです。ナイトハイクの過酷さはこれまでにみんなの居場所で述べてきた通りですが、この行事を成功させるためには何か一つのことを最後までやり通す、やり遂げるという考え方が重要になってきます。そのため、朝の忙しい時間帯に１５分ほどの時間を取って、校庭を１０周走るということを毎日続けるということが、気持ちの面で活きてくることになる訳です。当時の子供達はナイトハイクが終わっても、卒業まで校庭を走り続けました。

ナイトハイクやキャンプは学級ＰＴＡ行事として実施しました。キャンプはともかくとして、ナイトハイクは充分な説明が必要です。私は経験してきましたので感覚的にこうすれば成功するということが分かっています。しかし、子供達や保護者の皆様は、頭の中に?マークだらけだったと思います。ナイトハイクについては、保護者説明会をすることにしました。子供達が家庭でしっかり説明してくれていたのでしょう。保護者の皆様のご理解とご協力が得られ、行事そのものの実施にＯＫが出ました。校長先生も説明会に立ち会われ、私の思いをしっかりと汲み取って頂きました。

行事のＧＯサインが出ると、６月頃から私の動きは加速度を増します。というのは、学校ですから授業を行いつつ、教育課程に沿った教育活動も展開していく必要があるからです。また、夏休み前の事務的な手続き等もありますからね。そのような中に、キャンプとナイトハイクを夏休み中に実施するのですからかなりの事務量です。優先順位をつけて先を読んだパフォーマンスが必要になる訳です。私だけではありません。２つの行事は保護者の皆様のご協力が無ければ成り立ちません。関係諸機関との連携等については、保護者の皆様にお願いすることもしばしばでした。マスコミへの取材依頼、道路使用許可申請、経路途上のコンビニエンスストアへの協力依頼等々、私一人だけでは対応できないことを、数多く依頼しました。当時の学級委員さんにも大変お世話になりました。私が熊本から通ってきていることに対するお気遣いや、学級通信に対するコメント等、多くの場面で精神的なサポートを頂きました。

学級では運動会を終えた後、学級集団のベクトルはすでに裏に向いていました。私は担任として集団をコントロールすべく、子供達の自主性を育む部分と大人でコントロールする部分を分けて考えました。子供達の人間関係を考慮して、班編成はこちらで決めることにし、班での協働の部分についてはすべて子供達に任せました。そのことで、普段は話せずにいた子供同士が話せる状況に変わっていきました。まさに、担任としての戦略でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）